



K-RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

2006# vol.4

(財)九州産業技術センター
九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp>

エコプロダクツ2006に出展

平成18年12月14日(木)から16日(土)に東京ビッグサイト(東京都江東区有明3-2-1)で開催されました「エコプロダクツ2006」に、K-RIP会員企業 環境テクノス(株)、(株)日本リモナイト、(株)マサキ・エンヴェックの3社及びK-RIPの4社・団体が集合し、K-RIPブースとして出展いたしました。

この環境展は、エコ商品の普及とビジネスチャンスを広げることを目的に、平成11年から開始されている日本最大級の環境配慮製品展で、今年で8回目の開催となります。毎年、出展者、来場者とも増え、今年度は出展者572社・団体、来場者152,966人となりました。九州からは、他には、北九州市(K-RIP会員)、福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター、大山食品(K-RIP会員)が出展されていました。

3日間にわたり各社とも、多数の来場者がブースを訪れ、熱心な対応や商談が行われました。また、K-RIPについても、来所されたお客様に、K-RIPの取り組み等を紹介することができました。

12月15日(金)には、会場内で行われている「エコプレゼンテーション」に参加し、各社の製品や技術等を紹介するプレゼンテーションを行い、来場者場へのアピールを行いました。

■エコプレゼンテーション(12月15日)

時 間	テ ー マ	発 表 者
10:30~10:45	中国のRoHS指令とその対応	環境テクノス(株) 代表取締役 鶴田 暁
10:55~11:10	「阿蘇黄土」の用途開発について	(株)日本リモナイト 営業企画 辻 誠
11:20~11:35	夢の土「ルーフソイル」について	(株)マサキ・エンヴェック 東京 Office 杉浦 洋一
11:45~12:00	「K-RIP 事業」について	K-RIP事務局 下河 義秀



[(株)日本リモナイトの出展]



[(株)マサキ・エンヴェック 杉浦氏プレゼン]

廃棄物排出事業者と処理事業者とのビジネス交流会

～新たなビジネスマッチングの促進に向けて～

循環型社会の構築に向けて、九州各地でも様々な取り組みが展開されているところですが、現在の廃棄物処理現場では、「まだまだ資源循環可能な廃棄物」が多数存在しています。また、九州管内には、これら进行处理する優れた技術を持った多数の事業者があります。このような状況を踏まえ、K-RIPでは、(社)全国廃棄物連合会九州地域協議会との共催で、平成19年2月15日(木)、廃棄物排出事業者と処理事業者との新たな連携を促進するため、ビジネス交流会を開催いたしました。

九州内外から多数の方にご参加いただき、交流会参加者247名、個別相談会対応事業者43社・団体と盛況で、参加者からは「ぜひ次回も開催して欲しい」という声が聞かれました。

■プログラム

時 間	内 容
13:00~13:10	【主催者挨拶】 K-RIP 吉田需要創出部会長
13:10~14:10	【基調講演】『リサイクルビジネスの成功例と失敗例』 エコビジネスネットワーク代表 安藤 眞
14:10~15:10	【廃棄物処理事業者プレゼンテーション】 ◇『リサイクル(RPF 木材のチップ化)』 北越環境(株) 代表取締役 長井 崇 ◇『瓦のリサイクル』 (株)エコシステム 代表取締役 高田 治也 ◇『建設系廃棄物(がれき類・ガラスくず等)のリサイクル率向上について』 (株)都市資源開発 営業部主任 阿部 賀津男 ◇『循環型養豚』 (有)エコふぁーむ 専務取締役 中村 えいこ
15:20~17:00	【個別相談会】 ・事前公募により選出された43の廃棄物処理事業者等が相談窓口を設置し個別相談を行いました。 【パネルセッション】
17:15~19:00	【親睦交流会】



吉田部会長挨拶



安藤代表による基調講演



個別相談会



親睦交流会

■相談窓口設置事業者

【廃棄物処理・リサイクル等事業者】

No.	企業・団体名	地域	事業概要
1	大谷化学工業(株)	福岡県	廃棄物追跡管理、貴金属リサイクル、廃棄物コンサルティング
2	(株)ガイア	福岡県	環境関連機器製造販売(生ごみ処理機、廃タイヤ熱発生装置等)
3	光和精鉱(株)	福岡県	各種廃棄物処理、製鉄集塵ダストのリサイクル、処理困難物の処理
4	(株)サイム	福岡県	パソコン・OA機器の処理、プラスチックリサイクル
5	(株)三和興業	福岡県	廃コンクリートの中間処理、廃石膏ボードリサイクル
6	太平洋セメント(株)九州支社	福岡県	廃棄物リサイクル(セメント原料化、燃料化)
7	高野興産(株)	福岡県	廃油・廃酸・廃プラスチックリサイクル
8	田川産業(株)	福岡県	石炭灰・下水汚泥焼却灰の中間処理(資材化)
9	楽しい(株)	福岡県	食品廃棄物の地域内循環システム
10	(株)筑紫環境保全センター	福岡県	各種廃棄物リサイクル、環境コンサルティング、処理困難物の処理
11	(株)都市資源開発	福岡県	建設系廃棄物リサイクル
12	(株)ニシゲン	福岡県	ICタグを利用した各種廃棄物のマテリアルリサイクル
13	(株)野原商会	福岡県	各種産業廃棄物収集運搬・処理
14	(株)響エコサイト	福岡県	建設系廃棄物リサイクル、木屑リサイクル
15	(株)福岡生物産業開発研究所	福岡県	有機廃棄物全般の再資源化及び分解処理(減容化)
16	三菱マテリアル(株)九州工場	福岡県	廃棄物リサイクル(セメント原料化、燃料化)
17	(株)森商事	福岡県	廃酸・廃アルカリ等有害廃棄物の処理、特殊作業(タンククリーニング)等
18	(株)大橋	佐賀県	破碎処理機器等の製造販売
19	NPO法人伊万里はちがめプラン	佐賀県	生ごみ堆肥化活動
20	(株)篠原建設	佐賀県	各種産業廃棄物収集運搬・処理、石綿処分
21	(株)中央環境	長崎県	金属・プラスチック・ガラス・古紙・ガラス等のリサイクル、RPF製造、燃料チップ事業
22	マルゼン管理開発(株)	長崎県	廃プラスチック・廃木材・廃石膏ボード・古紙・金属等のリサイクル
23	(有)オーエス収集センター	熊本県	産業廃棄物のトータル処理(収集運搬・中間処理・最終処分)、有害物質の無害化処理
24	(有)熊本清掃社	熊本県	産業廃棄物及び一般廃棄物のリサイクル堆肥化
25	(株)日本リモナイト	熊本県	水質浄化、ガス吸着(臭気対策、脱硫財事業)
26	(株)エキスプレス大分	大分県	廃プラスチック・各種廃棄物・処理困難物等の処理
27	近畿環境興産(株)九州支社	大分県	各種リサイクル(廃油・廃酸・廃アルカリ・汚泥等)、コンサルティング・メンテナンス事業
28	(株)大総	大分県	食品廃棄物の再資源化(堆肥化)
29	九州北清(株)	宮崎県	各種廃棄物の溶融分解処理、処理困難物の無害化処理、溶融固化物のリサイクル
30	(株)ニチア	鹿児島県	廃プラスチック処理、環境配慮製品の製造
31	宇部興産(株)	山口県	廃棄物リサイクル(セメント原料化、燃料化)

【環境コンサル・分析機関等】

No.	企業・団体名	地域	事業概要
1	NPO法人エコテクル	福岡県	廃棄物追跡管理システムの提供、環境コミュニケーション活動等
2	環境テクノス(株)	福岡県	各種環境調査、環境アセスメント、環境コンサルティング
3	(株)九州テクノリサーチ	福岡県	各種環境調査、環境アセスメント、環境コンサルティング
4	太洋興業(株)	東京都	環境関連設計・施行・管理

【環境関連施設・公害防止装置等】

No.	企業・団体名	地域	事業概要
1	(有)エコネット	福岡県	ボイラー・熱交換器・配管スケール除去、廃プラスチック油化還元装置他
2	ライト工業(株)九州支社	福岡県	土壌地下水汚染調査・分析・評価、環境関連特殊土木工事(災害対策、環境保全等)
3	(株)ランド・クリエイティブ	福岡県	地盤掘削改良装置等の設計・製造等、土壌汚染対策工事、廃棄物最終処分場再生等
4	(株)ワイビーエム	佐賀県	土壌・地下水汚染浄化機器の製造販売等
5	住友重機械工業(株)	東京都	各種廃棄物の焼却溶融処理・再資源化

【関係団体】

No.	企業・団体名	地域	事業概要
1	九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)	福岡県	環境・リサイクルに係る産学官連携の促進、環境・リサイクル産業の振興
2	(社)全国産業廃棄物連合会九州地域協議会	福岡県	産業廃棄物処理業界の情報共有化、処理業者の資質向上・経営基盤安定化の推進
3	福岡県リサイクル総合研究センター	福岡県	リサイクル技術・3Rシステム等の研究、産学官民の連携促進

「地球温暖化防止シンポジウム」開催されるー長崎

～豊かで便利な生活の中で～

私たちは、「豊かで便利な生活」を送っています。そのため、大量のエネルギーを消費し、大量の廃棄物を発生させ「資源の枯渇」、「環境破壊」、「環境汚染」という困難に直面しています。私たち一人ひとりが、地球温暖化防止に対する取り組みを促すことを目的として、平成19年3月2日（金）にウエルシティ長崎に於いて、「地球温暖化防止シンポジウム ～豊かで便利な生活の中で～」を開催しました。

開会に際し、長崎大学環境科学部 佐久間学部長より地球温暖化防止への取り組みの必要性について事例を交えた話があり、基調講演では、長崎大学環境科学部 早瀬教授による日本人の環境意識や地域での取り組み等の報告されました。その後、扇精光株式会社 堀部長代理、PAL 構造株式会社 菅社長による企業の取り組みが紹介され、意見交換会ではコーディネーターを長崎大学環境科学部 武政教授（K-RIP 需要創出部会 副部会長）が務められ、会場を交えた熱心な討論が行われました。

- 日時／平成19年3月2日（金）14:00～17:00（17:30～19:00 交流会）
- 場所／ウエルシティ長崎（長崎市茂里町3番20号）
- 主催／長崎大学環境科学部、K-RIP
- 共催／長崎県
- 後援／九州経済産業局
- 参加者／150名
- プログラム

時 間	内 容
14:00～	【開 会】 長崎大学環境科学部長 佐久間 正 【あいさつ】 K-RIP クラスターマネージャー 杉元 勝
14:15～	【基調講演】『地球温暖化問題への地域からの行動』 長崎大学環境科学部教授 早瀬 隆司
15:00～	【事例発表】『我が社のISO14001』 扇精光株式会社 総務部部長代理 堀 正洋 『我が社の環境共生技術』 PAL 構造株式会社 代表取締役社長 菅 洋一
16:30～	【意見交換会】コーディネーター 長崎大学環境科学部 武政 剛弘



[会場：ウエルシティ長崎（開催前）]



[佐久間部会長による開会]

「環境ビジネス連携フォーラム in 鹿児島」開催される

～南九州バイオマスの新展開、余剰汚泥、家畜糞尿、焼酎粕の行方～

南九州は農畜産業、食品産業の盛んな地域で、日本の食糧基地としての機能を有しています。しかしながら、そこから発生する廃棄物処理は大きな問題であります。

また、地球温暖化の観点からカーボンニュートラルなクリーンエネルギーの利用が求められ、南九州においても経済と環境・エネルギー問題が両立した持続可能な循環型社会の構築が急務な課題となっています。

こうした中、K-RIP、かごしま水処理協会、かごしま産学官研究交流会未活用バイオマス利用部会は、問題解決に向けた取り組みを展開してきました。

今回の「環境ビジネス連携フォーラム in 鹿児島」は、南九州の環境をテーマに、産学官が連携し、問題提起や今後の新展開を目指し開催しました。

- 日時／平成 19 年 3 月 6 日（火）13:00～17:00（17:00～19:00 交流会）
- 場所／鹿児島大学 稲盛会館
- 主催／K-RIP、かごしま水処理研究会
- 共催／かごしま産学官研究交流会「バイオマス資源部会」
- 後援／九州経済産業局、鹿児島大学産学官連携推進機構、鹿児島県
- 参加者／230名
- プログラム

◇話題提供	産業クラスター計画と地域経済の発展 経済産業省 地域経済産業グループ（大臣官房企画官） 堺井啓公 知的財産施策について 九州経済産業局 特許奨励等調査員 真木孝夫
◇基調講演	3Rとバイオマス源 鹿児島大学理学部 早川勝光
◇講演	鹿児島県内の有機性排水と焼酎粕等の処理現状と今後の動向 鹿児島県工業技術センター 新村孝善 焼酎粕からの有効利用の現状 サザングリーン共同組合 石井 優 家畜分尿処理の現状と今後の動向 (株)ジャパンファーム 岩元士郎 余剰汚泥の減容と今後の動向 日本浄水管理(株) 中村義博 鶏ふん発電事業について 西日本環境エネルギー(株) 児玉 孝
◇討論	テーマ「南九州バイオマスの新展開」司会：鹿児島大学教授 守田和夫

（パネリスト：堺井啓公、早川勝光、新村孝善、川崎幸一、岩元士郎、中村義博、児玉 孝）



守田教授によるスケジュール紹介



児玉部長による講演

九州地域における汚泥リサイクル・有効活用に関する調査

K-RIP では、汚泥に関する研究会を設置し、九州地域における汚泥リサイクルの現状や有効活用方策について調査を行いました。調査結果の概要について以下のとおり報告いたします。

なお、本調査の報告書をご希望される方は事務局までご連絡ください。

1. 事業背景・目的

汚泥は、排出される産業廃棄物の約 46% 近くを占めるほど発生量が大きく、かつ有効活用比率が低い産業廃棄物である。そのため、汚泥の有効活用により産業廃棄物自体を激減させる可能性を持っている。

一方、K-RIP は、平成 17 年度に「九州地域内における環境産業資源等に関する調査」を実施し、将来性のある環境分野として、

- (1) 液晶ディスプレイのリサイクル, (2) 焼却灰等の処理、リサイクル
- (3) 汚泥等からの有用物質の抽出, (4) 汚泥減容化技術, (5) 長寿命化関連技術
- (6) 生分解性プラスチック, (7) 有害化学物質対策, (8) バイオマスのエネルギー利用

の 8 分野を抽出し、重点取組分野として九州における環境産業事業創出を目指している。

それらを踏まえ、昨年度の調査で抽出された将来性のある環境分野である、(2) 焼却灰等の処理、リサイクル, (3) 汚泥等からの有用物質の抽出, (4) 汚泥減容化技術, (8) バイオマスのエネルギー利用の 4 点に対して汚泥を対象に九州地域での新たな環境事業創出の可能性について調査を行った。

2. 調査内容及び結果

(1) 九州地域の汚泥発生量及び処理状況調査

汚泥の有効活用を検討する上で、九州地域における汚泥の発生量及び処理状況の調査を行い、現状の把握を行った。九州各県における汚泥の発生量及び処理状況について下図に示す。



図 九州各県の年間汚泥発生量

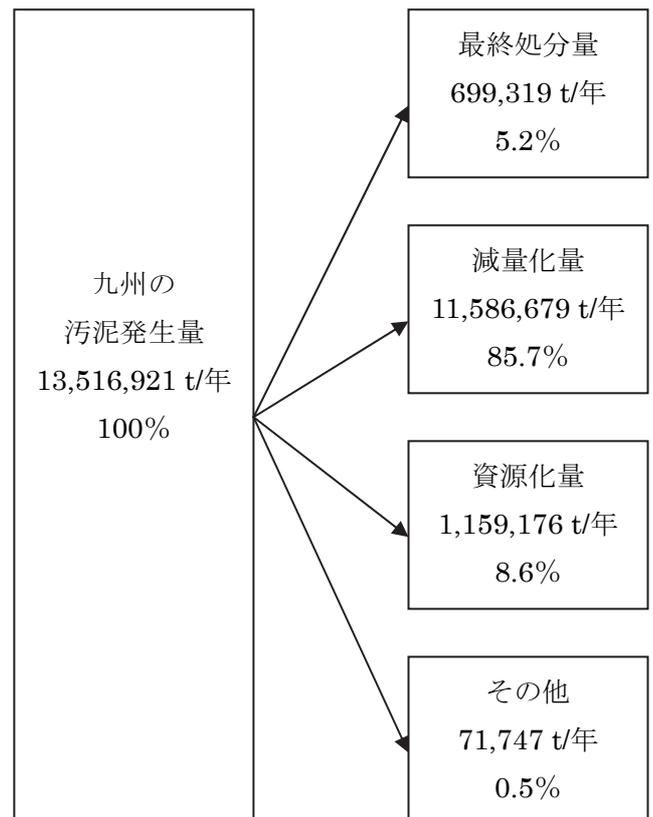


図 九州各県の年間汚泥処理状況

九州全域で年間発生する汚泥は、約 13,517 千トンとなっている。このうち最終処分量は、約 699 千トン (5.2%)、資源化量は約 1,159 千トン (8.6%) である。九州全域の産業廃棄物の資源化率が約 56.7% なので、汚泥の資源化率は産業廃棄物の資源化率と比較してかなり低い数値となっている。

汚泥は、含水率が高く、このように含水率が高い状態では、処理コストが嵩んでしまう。そのため、汚泥の排出事業者は、自己処理として濃縮や脱水を行い、重量を小さくし処理費の削減を図っている。この影響で、汚泥は他の産業廃棄物と比較して減量化率が高い (九州全域の産業廃棄物の減量化率が約 34% であるのに対し、汚泥の減量化率は約 86%) のが現状である。

(2) 汚泥減容化調査

汚泥の処理状況調査により汚泥は減量化されてから処分されているケースが非常に多いことが分かった。汚泥減容化処理には、多くのエネルギーが消費されていることが推測できる。汚泥減容化技術の向上や新技術の開発により、省エネルギーを実現すれば、環境負荷軽減が期待される。

汚泥は、廃水処理で多く採用されている活性汚泥法により大量に発生する。この余剰汚泥 (返送汚泥) 中の微生物の細胞壁を、物理的、化学的、生物学的手法によりを分解することで、余剰汚泥が減ることが知られている。

活性汚泥処理に余剰汚泥の汚泥減容化装置を導入した概略フロー図を右図に示す。

代表的な汚泥減容化技術とそれぞれの減容化率、適用分野を下表に示す。

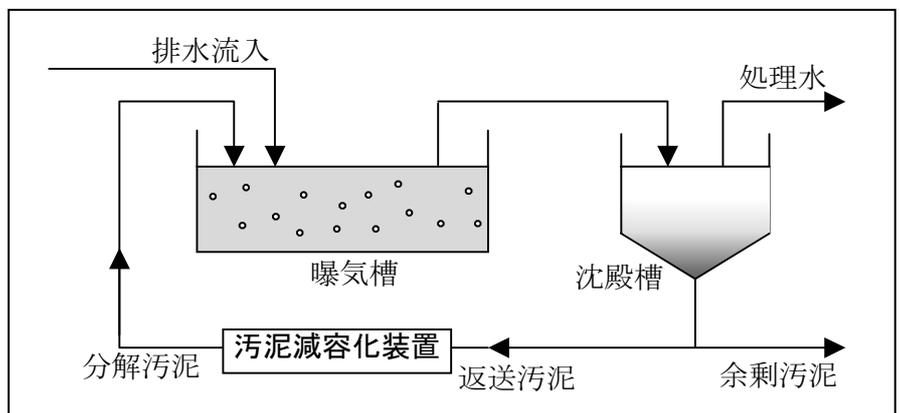


図 一般的な汚泥減容化システムフロー図

表 汚泥減容化技術一覧

汚泥減容化技術	実現性	減容化率	適用分野
ミル破砕	実証試験段階	ほぼ 100%	化学工場, 農村集落排水等
超音波照射	研究段階	80%	下水汚泥, 農村集落排水等
オゾン	実用化段階	96%	下水汚泥, 化学工場, 農村集落排水等
酸化剤	実用化段階	86~90%	食品工場, 飲料工場等
好熱性細菌	実用化段階	80%以上	下水, 化学工場, 電子工場等

今回調査した汚泥減容化技術により、減容化装置の導入で 80~100% 程度の汚泥が減容化される。また、汚泥の処分費が削減されるため 3 割から 5 割程度のコスト削減が見込める。しかし、リンや有機物の蓄積による負荷が増大することが課題である。また、難分解性物質が、曝気槽内に蓄積され MLSS (活性汚泥浮遊物質) が増加する。

(3) 汚泥からの有用物質抽出調査

汚泥有効活用の一環として、汚泥からの有用物質抽出について調査を行った。汚泥から抽出される有

用物質としてリンに着目して調査を行った。

リンは、国内で肥料の原料として安定した需要がある。リン製品の原料となるリン鉱石は、中国等の需要拡大の影響もあり 100 年ほどで枯渇すると予測されている。リン枯渇の懸念に対して、主要なリン鉱石の産出国では、リン鉱石の輸出を規制する動きも始まっている。

一方、汚泥にリンが含有することで焼却の際に炉を傷める、汚泥をセメント原料とした場合品質を劣化させるなどが問題として指摘されている。また、リンが閉鎖水域に流出すると富栄養化などの環境汚染も懸念される。リンの循環再利用システムを確立できれば、リン資源枯渇回避と国内リン循環利用等の効果が期待される。

表 リン回収方法

	HAP 法	MAP 法	熱溶解法
概要	処理原水を pH 調整し、カルシウムイオンを添加したものを種結晶材（珪酸質、石灰質）に通水させることで、処理原水内のリン酸イオンをヒドロキシアパタイト（ $\text{Ca}_{10}(\text{OH})_2(\text{PO}_4)_6$ ）として晶析させる。	処理原水にマグネシウムイオンを添加し、pH を調整して、リン酸マグネシウムアンモニウム（ $\text{MgNH}_4\text{P}_2\text{O}_7$ ）を生成させる。 $\text{MgNH}_4\text{P}_2\text{O}_7$ は曝気により造粒し、肥料原料として有効利用可能	リンを含んだ汚泥を 70℃、150 分間加熱する事で、汚泥中リンの約半分が溶出する。その上澄液に消石灰を加え、リン酸、ポリリン酸を凝集沈殿させる。
処理対象	汚水	汚水	汚泥
リン回収率	70~85%程度	70%程度	40~80%程度
長所	肥料として利用可能	肥料として利用可能	リン鉱石より高リン酸含有
短所	汚泥処理、最終処分が必要。 設備が大きくなる	汚泥処理、最終処分が必要。 後段でスケールが発生	キレート等の金属処理剤の追加が必要。 汚泥処理、最終処分が必要。
技術レベル		実設備（宍道湖，北九州）	実験プラント

引用：東京都下水道局技術年報 2003「焼却灰のリン肥料化技術の開発に関する調査」

余剰汚泥からリンの抽出は上記方法により技術的に可能である。余剰汚泥からリンを回収することには様々なメリットがあるが、余剰汚泥からのリン回収設備はあまり普及していない。その理由として、リン抽出技術を用いて回収されるリン化合物は、現時点において天然リン鉱石の約 10 倍ものコスト高であることがあげられる。リンは限りある資源であるため、低コストでのリン回収技術システムの開発が実現できれば、将来環境産業として発展する可能性は高い。

（４）汚泥エネルギー化技術

汚泥は、有機性汚泥と無機性汚泥とに分類される。このうち有機性汚泥は、エネルギー源として有効利用が可能である。有機性汚泥は、九州地域において、年間発生量は約 8,120 千 t（鹿児島県は有機性汚泥と無機性汚泥の区分がなかったため除く）と推計される。汚泥の発熱量を 500kcal/kg と仮定すると、九州地域で発生する有機性汚泥は、原油換算で 436,000kL に相当する。

今回の調査では、エネルギー化技術として、嫌気性発酵、油温減圧式乾燥、炭化の検討を行った。

表 汚泥エネルギー化技術一覧表

方式	嫌気性発酵	油温減圧式乾燥	炭化
概要	嫌気性微生物を用いて嫌気環境下で発酵させることで燃料として利用可能なバイオガス（CH ₄ ：60%）を回収する。	油を予め加温した後に原料を投入し、減圧状態（真空下）にて原料中の水に沸点を下げることに より、低温度（100℃前後）で乾燥汚泥を製造する。	汚泥を低酸素状態で燃焼することで、有機物など、揮発する成分の大部分をガス化し、無機物と固定炭素からなる炭化物を得る。
利用形態	ガス	固形燃料	固形燃料
発熱量	5,500kcal/m ³	5,000kcal/kg	約 3,000 kcal/kg
事例	福岡市中部水処理センター、 宮崎下水処理場など	御笠川クリーンセンター	東京都下水道局 (2007年下期事業開始予定)

余剰汚泥のエネルギー利用は、近年盛んに事業化が検討されている。油温減圧式乾燥により製造された乾燥汚泥や炭化方式により製造された炭化汚泥が、石炭火力発電所において燃料としての利用されることが計画されている。

また、より小規模利用を志向し、現在の小規模油ボイラ代替として利用する熱供給事業は、近年の原油高で事業可能性が高い。余剰汚泥をエネルギー利用することにより、化石燃料削減と汚泥の安定処理が期待される。

（5）汚泥焼却灰有効利用調査

現在、汚泥焼却灰は、土壌改良剤や路盤材、セメント原料等に主に利用されている。焼却灰の新たな有効利用として外壁材、内壁材の利用について検討した。

九州の会社では、石炭焼却灰を用いて不焼成タイルを作成している（グッドデザイン賞受賞）。技術的には汚泥焼却灰を用いて不焼成タイルを作成することは可能である。不焼成タイルは、焼却灰が70%程度配合され、真空圧縮成形により不焼成で成形される。そのため、焼結セラミックタイルと比較して製造にかかる総エネルギーを20%程度に抑えることができる。

石炭灰を用いた不焼成タイルは、タイル石材市場での認知度はまだ低いものの、グリーン購入法などにより環境に配慮した製品の購入が推進されている現状において、認知度が上昇すれば今後シェア拡大が期待される。シェア拡大により、不焼成タイルの生産量向上により汚泥焼却灰の利用が促進される可能性が大きくなる。

3. 総括

現在、汚泥の有効利用方法として代表的なものに緑農地利用（堆肥化）や建設資材利用（セメント化）が挙げられる。しかし、汚泥の有効利用手法が限定されると汚泥の安定的な処分に支障を招く恐れがある。そのため、将来更なる有効利用手法の拡大は汚泥の安定的な処分に大きく寄与する。

今回調査した技術により、環境浄化、処理費削減、化石燃料の削減、有用物質の回収等に寄与できるが、経済性などの課題も見受けられる。今後、これらの課題を克服することで、新たな環境産業創出実現に結びつくことを期待する。

K-RIP クラスター戦略会議の報告

今年度 K-RIP では、クラスター戦略会議を設置し、今後の方向性等について検討しました。延べ5回の会議を実施し、K-RIP が目指すもの等取りまとめましたので、その要約を報告いたします。

K-RIP が目指すもの

1. “多様性（ダイバーシティ）”を包括する“創造力”漲る K-RIP

「新しいもの」「魅力あるもの」は文化の“多様性（ダイバーシティ）”の中から生まれることが多く、如何に多様な要素を包含しているかがその組織の“創造力”のひとつの試金石ともいえる。

K-RIP においては、会員の幅を、これまでの「域内の産学官」のみならず、NPO、コミュニティビジネス、海外人材・企業・大学、自治体等の多様なプレーヤーに広げ、新たな事業、新たな産業を力強く生み出す、創造力漲る組織を目指す。

2. “地域の個性”を活かした“オール九州”の取り組みを可能とする K-RIP

～個性ある地域のサポーター兼地域間連携のコーディネーター～

環境産業の多くは、地域固有のニーズに対応する中で生まれ、地域に密着した技術開発や社会システムづくりにより、個性ある“地域の強み”と育まれる。一方、地域の枠を超えた幅広い知（技術・ノウハウ）の連携によって、はじめて地域のニーズに対応することが可能となるものもあり、道州性が議論されている昨今、オール九州を念頭に置いた循環型社会の構築が求められている。

この様な“地域の個性”を活かした地域の取り組みをバックアップするとともに、これを“オール九州”でサポートするコーディネーターとしての役割を果たす K-RIP を目指す。

3. アジアとの共存共栄を図る“環境リエゾン” K-RIP

急激な経済発展を続けているアジアの国々における大気汚染・水質汚濁などの環境問題が深刻化しており、また、拡大するエネルギー需要がグローバルな環境問題に与える影響も懸念されている。

この様な「アジアの環境・エネルギー問題」は、もはや「世界の環境・エネルギー問題」となりつつあり、地理的に最も近く、公害克服の経験から世界でも進んだ技術・ノウハウを有する九州の環境産業が果たすことができる役割も大きい。更には九州の環境産業にとっても、アジア諸国は将来性の高い大きなマーケットとして期待されている。K-RIP は、アジアへの進出を目指す九州企業を支援することにより、アジアと日本との共存共栄を図る、日本とアジアの“環境リエゾン”を目指す。

4. “環境人材の揺籃” K-RIP

21 世紀は「環境の世紀」と言われている。こうした世界の潮流を支える“環境人材”の育成は、21 世紀の大きな課題であり、新しい時代を切り拓く「産業人材」「若き世代の環境人材」「アジア環境人材」の育成が求められている。K-RIP はこうした環境産業の発展を支える人材育成事業を展開することにより、環境人材を継続的に輩出する“環境人材の揺籃”を目指す。

以上を踏まえ、クラスター戦略会議では、19年度に強化すべき事業として、**人材育成、事業の地域展開、南九州でのシンボリックなイベントの開催及びプロジェクト創出、NPO との連携強化、**を挙げ、長期的視点で検討すべき事項として、**事務局機能の強化、会員による自主運営機能の向上、魅力ある事業の実施**を提言しております。

K-RIP国際シンポジウムを開催

～材料開発とリサイクルに向けた産業連携～

本事業は、九州・中国・韓国のアジア諸国を中心に、環境材料の研究開発、製造と応用分野における最先端技術に関して情報交換及び討議を行い、エコロジー、ナノマテリアル、エネルギー変換、リサイクル、環境保護など、環境材料とプロセス設計に関する技術開発を目的に、第8回環境材料国際会議と併催し、実施されました。各セッションを通じ、第8回環境材料国際会議と併せ、アジア地域（九州・中国・韓国）の大学等研究者や企業関係者の連携やネットワークが深まったものと思われます。また、K-RIP会員も多数参加されておりました。

■期間／平成19年1月11日（木）～13日（土）

■場所／北九州国際会議場（北九州市小倉北区浅野3丁目9-30）

■主催／K-RIP

■後援／九州経済産業局、北九州市

■プログラム内容

「ノンハザードマテリアル」「リサイクル技術」をK-RIP企業セッションとして開催

平成19年度K-RIPプロジェクトを募集中！

K-RIPプロジェクトは、K-RIP会員が実施する環境・リサイクル産業の育成・振興に係る事業への支援を行うものです。会員の皆さま奮ってご応募ください。

1. 応募期間 平成19年3月15日（木）～4月13日（金）
2. 助成金の範囲 総額450万円、採択数は5件程度（1件100万円以内）
3. スケジュール 応募プロジェクトが多数の場合は、書類選考を行い、書類選考を通過したプロジェクト応募者は、4月26日に開催される応募者プレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーション内容等を参考に、採択者を決定します。

*応募方法等詳細は、先日配布いたしました「平成19年度K-RIPプロジェクト募集要項」若しくは、K-RIPホームページの「K-RIPプロジェクト」をご参照ください。不明な点はK-RIP事務局までお問い合わせください。

平成19年度K-RIP総会 開催のご案内

1. 日時 平成19年6月8日（金）14:00～19:00
2. 場所 ホテルセンタラーザ博多（博多駅筑紫口前）
福岡市博多区博多駅中央街4-23 TEL092-461-0111
3. スケジュール
14:00～15:00 K-RIP役員会
15:10～16:10 K-RIP総会
16:20～17:20 記念講演
17:40～19:00 親睦交流会

広報紙「K-RIP情報」のお知らせ

今回は掲載応募がございました～東建工業株式会社～をご紹介します

資源(廃棄物)の再利用を図るエコビジネスを展開

東建工業(株)は、建築・土木・産業廃棄物処理及び環境コンサルティング事業を通して、人と自然のいい関係を求め、固定観念にとらわれない発想で、環境ビジネスに取り組んでいます。また、ISO9001:2000を取得し、循環型社会を担う適正なシステム構築に取り組んでいます。



認証取得

メスキュード事業部

東建工業(株)メスキュード事業部は、廃棄物の安全無害化溶融処理に着目し、1992年に共英製鋼(株)メスキュード部と業務提携し、廃棄物のコンサルティング・収集運搬・中間処理を行っています。

共英製鋼(株)は、電気炉による鉄鋼事業を中核とした、総合リサイクル企業です。電気炉の稼働時には3,000～7,000℃のアーキ熱が発生します。この熱を有効利用しようという発想からスタートしたのがメスキュード環境リサイクル事業です。処理の難しい産業廃棄物(廃石棉・石綿含有廃棄物・大型機械・乾電池・蛍光灯・劇物などの付着物・医療廃棄物など)をはじめ、あらゆる廃棄物を数千度の熱で安全かつ適切に完全無害化溶融し、再利用可能な資源として甦らせています。

さらに、ガス化溶融炉による廃棄物を処理しながら燃料ガスを製造する事業に着手したほか、大型シュレッダーや管理型最終処分場での産業廃棄物処理も行なうなど、電気炉をコアにあらゆる廃棄物を確実に処理する、一所完結型の総合リサイクルシステムを展開しています。このメスキュードシステムは、ゼロエミッションを目指されている企業にとって、あらゆる廃棄物を全てリサイクルし、資源の再利用が出来るシステムで環境への貢献度は非常に大きいものと考えます。

東建工業株式会社 メスキュード事業部

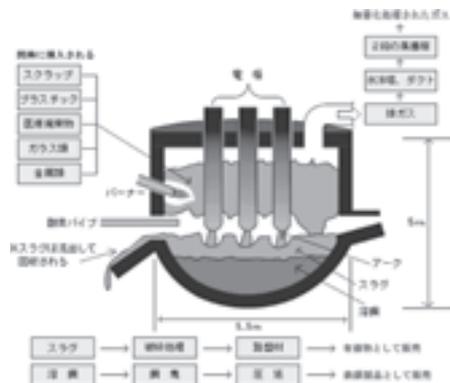
所在地: 福岡県久留米市原古賀町25-11
TEL: 0942-30-3233 FAX: 0942-37-2103

e-mail: info@messcud.com
URL: <http://www.messcud.com>

東建工業株式会社

環境事業概要

- 共英製鋼株式会社メスキュード部指定代理店
- 特別管理産業廃棄物・産業廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の中間処理
- 一般廃棄物収集運搬、資源リサイクル品の買取
- 環境コンサルタント
- 建設物解体、総合建設業



メスキュードシステム

広報紙「K-RIP情報」への会員情報掲載について

技術紹介、表彰、各企業の紹介他各会員の情報にスポットをあて紹介いたします。情報の掲載を希望される方は、K-RIP事務局までご連絡ください。

編集後記

平成18年度も終わり19年度が始まります。K-RIP会員の皆さまは年度の終わりでお忙しいところだと思います。平成19年度は、クラスター大学の復活など楽しいイベントもたくさんあります。いろんなところで皆さまと出会い、友好の輪をひろげていきたいと考えております。

【Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza】(K-RIP) 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP) 事務局



〒812-0013
福岡市博多区博多駅東2丁目13-24
(財)九州産業技術センター内
TEL 092-474-0042
FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp



大豆インクを使用しています



古紙配合率100%再生紙を使用しています。